A 1590年（天正18）⟶1883年（明治16）
江戸・明治の事件現場

天下泰平と呼ばれた江戸時代、
一気に西洋化に舵を切った明治時代、
それぞれに劇的な事件が繰り広げられていました。
時代順にみていこう。

A1 1590年（天正18） 徳川家康 江戸入府 map D-5

大都市・江戸の幕開けとなる

豊臣秀吉に国替えを命じられた家康が、江戸に入ったのは8月1日（八朔）。1603年に征夷大将軍になると幕府の本拠としての都市建設に着手。葦（あし）が生い茂る低湿地の寒村だった江戸を、100万人が暮らす世界最大級の都市に発展する基礎を築いた功績からして、家康の入府はまさに一大事件だ。入府ルートは諸説あるが、当時の日比谷は入り江だったので、現在の甲州街道（靖国大通り）を通過して半蔵門（当時御門は存在しない）あたりから城内に入ったみるのが正しいようだ。

現在の半蔵門

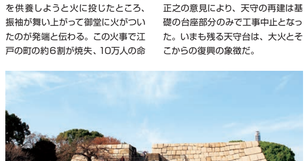
「慶長江戸図」／東京都立中央図書館特別文庫室
慶長7年（1602）ごろに描かれたと考えられている地図の写し。左下部に埋め立てられる前の入江が見える。

A2 1657年（明暦3） 明暦の大火 map E-4

江戸の大半が焼失し、死者10万人に及んだ

江戸を襲った大火のなかで最大の被害をもたらしたのが、明暦の大火（振袖火事）。本郷丸山（現・文京区本郷5丁目）の本妙寺で、呪われた振袖を供養しようと火に投じたところ、振袖が舞い上がって御堂に火がついたのが発端と伝わる。この火事で江戸の町の約6割が焼失、10万人の命が奪われ、江戸城内も西の丸を除きすべて焼け落ちた。

火事のあと、「城下復興にこそ予算を費やすべき」という会津藩主・保科正之の意見により、天守の再建は基礎の台座部分のみで工事中止となった。いまも残る天守台は、大火とそこからの復興の象徴だ。


天守台。加賀藩主・前田綱紀によって築かれた。

A3 1671年（寛文11） 伊達騒動 map F-4

「伽羅先代萩（めいぼくせんだいはぎ）」のモチーフは仙台藩の内紛劇

江戸三大御家騒動の一つとされる伊達騒動は、3代藩主・綱宗が不品行を理由に幕府から隠居を命じられたことに始まる。代わって藩主となったのは、まだ2歳の長男・亀千代。伊達兵部（初代藩主政宗の10男）が後見役となり、家老・原田甲斐を重用して藩政を動かした。一方、兵部の専制に反発した伊達安芸は、幕府に藩の内情を訴え、幕府が取り調べることになった。

詮議の場となったのが、大老・酒井忠清の上屋敷。ここで原田が安芸を斬殺、原田も酒井家家臣により斬殺された。藩の内紛は迷宮入りとなったが藩の存続は許された。

歌川国貞作「伽羅先代萩」（藤田直則）／東京都立中央図書館特別文庫室
伊達騒動をモチーフにした歌舞伎狂言「伽羅先代萩」の一場面。

三代歌川豊国作「忠義義臣録」（第三）／東京都立中央図書館特別文庫室
浅野内匠頭が吉良上野介に斬りかかった瞬間を描いた一枚。

A4 1701年（元禄14） 松之大廊下刃傷事件 map E-5

赤穂浪士討ち入り事件の発端となった

事件当時、朝廷からの勅使が年賀返礼のために江戸に下向していた。赤穂藩主・浅野内匠頭長矩は勅使馳走役として登城しており、その指南役にあたっていたのが高家（朝廷関係の儀礼や交渉にあたる名家）・吉良上野介義央だった。

4月21日、江戸城の松之大廊下で、浅野が吉良に斬りかかった。両者間に何があったか定かでないが、江戸城内の刃傷沙汰は大事。浅野は即日切腹を命じられ、お家断絶となった。負傷した吉良へのおとがめはなく、お家の再興も退けられた赤穂浪士47人は、翌年12月吉良邸に討ち入り本懐を遂げた。この事件は「仮名手本忠臣蔵」をはじめ、歌舞伎や映画で語り伝えられている。

A5 1714年（正徳4） 江島・生島（えじま・いくしま）事件 map F-4

大奥の最高実力者と歌舞伎役者のスキャンダル!?

1714年、ひとりの女性が江戸城を追放され、平川門（不浄門）から儒州へと送られた。7代将軍・家継の生母・月光院に仕える御年寄（大奥女中の最高実力者）の江島である。2月26日、月光院の名代として上野・寛永寺と芝・増上寺に参詣した江島は、その帰途、山村座へ赴いた。歌舞伎見物、役者・生島新五郎らとの酒宴を楽しんだが、帰城の門限（夕方4時ごろ）に遅れたことが大問題となる。さらに生島との情通を追及され、江島は信州にお預け、生島は三宅島に流罪。ほか関係者約1500人が処分された。だが、ふたりの密通は事実無根で、月光院派の失脚を狙った6代将軍・家宣の正室・天英院派の陰謀だったともいわれる。

別名「不浄門」と呼ばれる平川門。江島のほかに、吉良上野介を斬りつけて即日切腹を命じられた浅野内匠頭もこの門から城外へ出されたという。

月岡芳年作「新撰東錦絵」（生島新五郎之話）／東京都立中央図書館特別文庫室　江戸時代、大奥を題材に描くことは禁じられており、本作は明治に描かれたもの。

A6 1858年（安政5） お玉ヶ池種痘所設立 map I-3

江戸の蘭学医83人が私費を投じた

江戸時代後期、天然痘は流行病のなかでもとくに感染力が強く、治療薬もなくいわゆる恐れられていた。そこで、本所で開業していた蘭方医・伊東玄朴が立ち上がる。長崎でシーボルトに学び、医学書の翻訳を通じて種痘の効果を知った玄朴は、いち早く牛痘接種を手がけ、大槻俊斎・戸塚静海ら総勢83名の蘭方医とともに資金を出し合い、種痘所開設を実現した。半年後に大火で焼失して移転するが、ここで生まれた功績は計りしれない。

種痘所跡に残る説明板。

A8 1861年（文久元） 和宮降嫁（かずのみやこうか） map E-3

公武合体の象徴、幕末のプリンセス江戸に下る

桜田門外の変で、幕府の権威は失墜した。老中・安藤信正は、朝廷との融和によって幕府の権威を回復しようと考え、朝廷に14代将軍・家茂への降嫁を求めた。孝明天皇は「攘夷」を条件に、妹・和宮の降嫁を認めた。そして1861年11月15日、和宮一行は江戸に到着し、清水邸に入った。このときの和宮の行列は、およそ6000人にもおよぶ壮観豪華なものだったという。なお、婚儀は翌年2月11日に行われた。

皇女・和宮が輿入れの際に通ったとされる清水門は、江戸城北の丸（現・北の丸公園）の東門だった。

蓮田市天部作（桜田門外之変図）／茨城県立図書館デジタルライブラリー
本作を描いた蓮田は、水戸藩脱藩者で井伊直弼襲撃者のひとり。預けられていた細川家の家臣に求められ、事件の有様を描いて残したという。

A7 1860年（安政7） 桜田門外の変 map E-6

井伊直弼の強引な政策、執拗な弾圧への報復

1860年3月3日、江戸は朝から大雪に見舞われた。江戸幕府の最高実力者であった大老・井伊直弼は、上巳の節句（雛祭り）で登城の途中、桜田門の手前で水戸浪士らによって暗殺された。事件は、大老に就任した井伊が、勅許（朝廷の承認）を得ずに、日米修好通商条約に調印したことに端を発する。幕府の強引な進め方に批判の声が高まると、井伊は、外国を排斥しようとする攘夷論者をはじめ、多数の反対派を弾圧。吉田松陰らの獄死でも知られる「安政の大獄」である。このとき、御三家である水戸藩までも弾圧の対象となった。尊王攘夷思想を抱く一部の過激な水戸浪士らが、これに反発し井伊暗殺に及んだのである。

A9 1862年（文久2） 坂下門外の変 map E-5

尊王攘夷派に狙われた公武合体の推進者

老中・安藤信正は、井伊直亮亡きあと開国政策を継承、幕閣の中心となり、公武合体に奔走し、和宮の降嫁を実現する。こうした施策が尊王攘夷派の反感を買い、将軍・家茂と和宮の婚礼直前の1月15日、現在の皇居前広場に面する坂下門外で、水戸脱藩の志士5名に襲撃された。襲撃者はその場で斬殺、安藤は命こそ取り留めたものの、3か月後に老中を罷免された。

現在、宮内庁の出入り口として使用されている坂下門。事件当時は、西丸の通用門だった。

A10 1868年（慶応4） 江戸無血開城 map F-4

戦禍を免れ、江戸から東京へ

4月10日、最後まで大奥に残った天璋院（13代将軍家定の正室）が江戸城から退去し、現在の竹橋駅近くにあった一橋邸へと向かった。翌11日、江戸城明け渡しをもって、約260年にわたる徳川幕府は終わりを告げた。明け渡しのおよそひと月前、江戸を包囲した新政府軍は幕府軍に総攻撃を仕掛けようとしていた。その直前、三田（東京都港区）の薩摩藩邸で陸軍総裁・勝海舟と新政府軍の西郷隆盛の会談が実現。結果、最後の将軍慶喜の恭順をもって、江戸攻撃の中止がなされ、江戸無血開城が決定した。100万人が暮らす江戸は戦禍を免れたのだった。

その後、江戸は東京と名称を変え、江戸城は皇居となり、翌1869年3月に新たな主人となる明治天皇を迎えた。江戸城周辺の大名屋敷は官庁街に生まれ変わり、首都東京が誕生したのである。

小堀鞆音作（東京御番鑒（れん））／聖徳記念絵画館　明治元年（1868）10月13日明治天皇の一行が、江戸（東京）に到着し、二重橋をわたって城に入る様子を描いた作品。

A11 1878年（明治11） 紀尾井坂の変 map B-5

明治維新の傑物大久保利通、不平士族に襲撃される

明治政府で参議兼内務卿を務め、中央集権化政策を主導していた大久保利通は、5月14日朝、自宅から馬車で内務省のある赤坂仮御所へと向かう途中、紀尾井坂で待ち伏せていた男らに襲われた。頭部など16か所を斬られて即死。袂を分かった盟友・西郷隆盛の自害から、わずか半年後のことだった。

紀尾井坂に近い清水谷公園の中には、大久保利通哀悼の碑が建つ。

改革を急く大久保は、四民平等を スローガンに掲げて武士の特権を廃止し、不平士族の反乱を厳しく鎮圧したことも あって、士族たちの反感を招いていたのだった。

A12 1878年（明治11） 竹橋事件 map E-4

待遇改善を求めた近衛砲兵の反乱

8月23日、竹橋御門近くの近衛砲兵隊陸営の兵士ら約260名が、天皇に待遇改善を直訴すべく蜂起した。だが、事前に計画を知った内務卿・伊藤博文が鎮圧を命じ、兵士らは代官町通りを中心に銃撃戦を繰り広げながらから赤坂仮御所に向かうが、弾丸つきで武装解除された。

天皇の護衛にあたるべき近衛兵が反乱に及んだ原因は、前年の西南戦争にあった。戦地に駆り出され、多くの戦死者を出しながらも勝利へと導く働きをしたにもかかわらず、兵士への恩賞が薄かったうえ、陸軍の予算削減を理由に減給されたことに不満を募らせたのだ。事件後、55人が死刑。これを機に、陸軍卿・山縣有朋は軍の統制強化を進めた。

小林清親作「近衛砲兵暴発録之画」部分／ジャパンアーカイブス

A13 1883年（明治16） 鹿鳴館（ろくめいかん）完成 map F-7

はかなく散った文明開化の象徴

イギリス人建築家ジョサイア・コンドルの手による鹿鳴館が完成したのは、1883年。開国の際に結んだ不平等な条約改正をめざす外務卿・井上馨の欧化政策の一環だった。現在の帝国ホテルの横に建てられたレンガづくりのこの洋館は、外国貴賓接待や上流階級の社交場となり、舞踏会や園遊会が開かれた。しかし4年後、井上が条約改正に失敗し辞職するとその役目を終えた。

鹿鳴館は、その役割を終えたのも束縛会館として使用された。／国会図書館デジタルコレクション

読みたい、観たい

名作になっている ちょだの事件

大々に衝撃をあたえ、日本の歴史に刻まれた事件の数々が千代田区内で起こっていた。名作として今に伝わる小説や映画で、当時の様子に触れてみてはいかがだろう。

※現時点で、入手できない作品もあります

江戸入府関連
『家康、江戸を建てる』
門井慶喜 著　（祥伝社文庫）
入府するや徳川家康は、低湿地の土地の改革に乗り出す。世界最大級の都市へと発展する江戸の礎を築く、家康の一大プロジェクトを支えた裏方たちの激闘を描いた歴史小説。

伊達騒動関連
『樅ノ木は残った』（全3巻）
山本周五郎 著　（新潮文庫）
もっぱら悪人として描かれてきた原田甲斐が、本作では取り潰しず前の藩を救う忠臣として描かれている。宿命を果たすために苦悩する主人公の姿は、従来の甲斐像を覆す。

お玉ヶ池種痘所関連
『陽だまりの樹』（全8巻）
手塚治虫 著　（小学館文庫）
蘭学医の卵・手塚良庵と武士・伊武谷万次郎を軸に幕末動乱期を描いた長編漫画。困難を乗り越えて種痘所を開設する蘭学医の物語にも注目。良庵は、作者の曾祖父がモデル。

松之大廊下刃傷事件関連
『元禄太平記』（全2巻）
南条範夫 著　（徳間文庫）
五代将軍徳川綱吉の側用人から幕閣の最高責任者へと上りつめていく柳沢吉保と、吉良邸討ち入りを果たしたのち、切腹を命じられる赤穂藩家老・大石内蔵助の宿命的な対決を描く。

桜田門外の変関連
『花の生涯』（全2巻）
舟橋聖一 著　（祥伝社文庫）
彦根藩主の末弟に生まれ、政治嫌いを標榜しながらも、井伊家を継ぎ、幕府の要職に就いた井伊直弼。たかなとの恋愛模様を絡めながら、維新前夜を生きた井伊直弼の波乱の生涯を描く。

和宮降嫁関連
『和宮様御留』
有吉佐和子 著　（講談社文庫）
公武合体のため、天皇の妹・和宮は徳川将軍家へ降嫁することに。だが、江戸へ向かう興に載せられたのは、身代わりの少女フキだった。大義に翻弄された少女たちの誇りを描いた名作。

東京駅宰相襲撃事件関連
『男子の本懐』
城山三郎 著　（新潮社文庫）
第一次世界大戦後の慢性的不況を脱するために、浜口雄幸と井上準之助とは、多くの困難を克服して昭和5年に金解禁を断行した。二人の男の生きざまに迫った城山三郎の代表作。

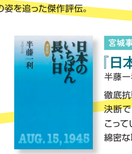
光クラブ事件関連
『青の時代』
三島由紀夫 著　（新潮文庫）
著者が「眞物の英雄譚」と語った本作は、名家に生まれ父への反感から一高・東大へ進んだ合理主義者の主人公が、高利やミ金融を主軸し自殺するまでの短い波乱の人生を描く。

二・二六事件関連
『渡辺錠太郎伝』
岩井秀一郎 著　（小学館）
ベストセラー「置かれた場所で咲きなさい」の著者・シスター渡辺和子の父・錠太郎。「二・二六事件」で、唯一"襲撃目標"にされた良識派軍人の姿を追った傑作評伝。

二・二六事件関連
『動乱』
（東映ビデオ）
昭和史の起点ともなった五・一五事件から二・二六事件までの激動の時代の空気が見事に伝わる。寡黙な青年将校とその妻の愛と生きざまを2部構成で描いた大作映画。

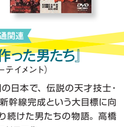
DVD

宮城事件関連
『日本のいちばん長い日』
半藤一利 著　（文春文庫）
徹底抗戦を訴える陸軍、ポツダム宣言に対して決断できない政府。終戦目前の日本で何が起こっていたのか。8月15日をめぐる24時間を綿密な取材で再現したノンフィクション。



DVD

東海道新幹線関連
『新幹線を作った男たち』
（ビクター エンターテイメント）
高度経済成長期の日本で、伝説の天才技士・島秀雄を中心に新幹線完成という大目標に向かって全力で走り続けた男たちの物語。高橋団吉の原作を元にドラマ化。



何が始まったのかな？ 発祥の地にも足を運ぼう

1700年に京都から江戸に下った荷田春満（かだのあずまろ）が、はじめて国学を説いた場所が神田明神だったことに由来し、本殿東側に碑が建てられた。

国学発祥之地　map G-1

1928年に国民の健康増進のために国民保険体操として簡易保険局が制定したラジオ体操。全国に先駆けて「早起きラジオ体操会」を開始した地を示す。

ラジオ体操会発祥の地　map I-2

滋賀県出身の堀井氏が豐写版（ガリ版）を発明し、1894年に特許を申請。神田錦冶町には「豐写堂」という販売店があった。

豐写版発祥の地　map H-3

1873年にこの地に創設された東京大学の前身・開成学校で、米国人教師ウィルソンが生徒に野球を教えたことに由来して建てられた。

日本野球発祥の地　map F-3

ちょだ歴史さんぽMAP④
千代田区観光協会 CHIYODA CITY TOURISM
発行：一般社団法人 千代田区観光協会
住所：東京都千代田区九段南1-6-17
電話：03-3556-0391　FAX：03-3556-0392
E-Mail：info@kanko-chiyoda.jp
ホームページ：https://visit-chiyoda.tokyo/
制作：江戸文化歴史検定協会
https://www.edoken.jp/
表紙：小林清親作（近衛砲兵暴発録之画）部分／ジャパンアーカイブス

B 1921年（大正10）⟶1966年（昭和41）
大正・昭和の事件現場

大正デモクラシーから戦争、敗戦を経て
本格的な民主化へ発展する歴史のなかで
政治の中枢だった千代田区内では、
デモや暴動、クーデターが多発しました。

B1 1921年（大正10）、1930年（昭和5） 東京駅宰相襲撃事件 map G-5

二人の首相、東京駅で命を狙われる

東京駅丸の内南口、券売機手前の床面に埋め込まれた小さな◎マークは、時の首相・原敬が殺害された現場である。事件発生は、1921年11月4日午後7時25分ごろ。京都で行われる立憲政友会近畿大会に出席するため、改札口へ向かっていたところを飛び出してきた19歳の青年に襲われた。短刀で刺された傷は心臓に達し、数分後に絶命した。党利党略を優先した原の政策に対する怒りが、犯行動機だったという。

昭和初期に多発するテロやクーデターの幕開けといえる事件だった。

現場となった東京駅乗車口（現・丸の内南口）。×印が刺殺された場所を示す。

ホームで襲撃を受けた直後の浜口首相。すぐさま駅長室へと運び込まれた。／毎日新聞社

B2 1932年（昭和7） 犬養毅暗殺（五・一五事件） map C-7

過激派将校らによる反乱

5月15日午後5時半ごろ、永田町の首相官邸が襲撃された。時の首相・犬養毅は、乱入してきた青年将校らに中国軍閥との金銭問題を追及され、「話せばわかる」と説得を試みたが、将校らは「問答無用」と発砲。2発目の銃弾が頭部を貫き絶命した。首謀者は、首都を混乱に陥れて軍事政権の樹立を企てたのだった。同年3月に三井銀行（現・三井本館）前で三井財閥重鎮・團琢磨を暗殺した血盟団の残党と結んでの犯行だったが、目的を果たすことなく幕を閉じた。

犬養毅が襲撃殺害された首相官邸で現場検証を行う様子。／毎日新聞社

B3 1936年（昭和11） 警視庁占拠（二・二六事件） map E-6

青年将校らのクーデターで戒厳令発令

2月26日未明、日本中に激震が走った。腐敗した政党・官僚・財閥に絶望し、国家改造を夢見る陸軍「皇道派」の青年将校らが約1500人の下士官・兵を率い、都内各地で同時多発的に政府要人の官邸や私邸を襲撃するとともに、首都中枢の占拠を開始。桜田門前の警視庁もおよそ400人の兵士の襲撃により占領され、東京に戒厳令が出された。

重臣殺傷に天皇は激怒し、軍首脳が鎮圧に乗り出すと、反乱軍の多くが投降し、4日にわたるクーデターは幕を閉じた。兵士の大多数が計画を知らず、演習と思って参加していたという。

警視庁中庭に集結した反乱軍。／毎日新聞社

B4 1945年（昭和20） 宮城（きゅうじょう）事件 map D-4

玉音録音盤をめぐるクーデター未遂

8月14日の御前会議で、ポツダム宣言を受諾して連合軍に降伏することが決まる。翌日正午にラジオ放送する終戦詔勅放送（玉音放送）が録音されたのは、午後11時ごろだったという。

終戦に納得できない抗戦派の陸軍中堅将校らは宮城（皇居）を占拠して、この放送を阻止しようと反乱を企てる。彼らは、代官町通りに面して建つ近衛師団庁舎に入り、師団長に玉音放送阻止、宮城封鎖の発令を迫るが説得に失敗し、師団長を銃殺。偽の命令書で近衛歩兵連隊を動かそうとしたが、偽造が発覚しクーデターは失敗に終わった。

旧近衛師団庁舎は、重要文化財に指定されている。

B5 1945年（昭和20） 進駐軍来たる map F-6

GHQ占領下におかれた日本

終戦直後の8月23日、進駐軍が敗米から続くとやって来た。30日にはアメリカから最高司令官マッカーサーが到着。日本の占領を主導するGHQ（連合軍最高司令官総司令部）本部が日比谷の第一生命ビル（現・DNタワー21）に置かれ、民主化政策が発せられる。9月27日には、昭和天皇がマッカーサーを訪問。現在、マッカーサー執務室は当時の姿に復原されている。このほか、警視庁や帝国ホテル、明治生命館、九段会館、日本工業倶楽部など、戦渦を免れた多数の建造物がGHQに接収された。

毎日新聞社

B6 1959年（昭和34） 皇太子様・美智子様ご成婚パレード map E-6

世紀のご成婚に53万人が沿道に押し寄せた

4月10日、皇居では皇太子様と美智子様（現・上皇と上皇后）の結婚の儀が執り行われた。初の民間出身皇太子妃誕生は、婚約当初から話題となり、空前の「ミッチー・ブーム」が巻き起こった。当日、ご成婚パレードが行われた皇居から東宮御所（現・赤坂御用地）へ向かうおよそ8キロの道のりには、沿道に53万人もの人が押し寄せ、日本中がお祝いムード一色に染まった。

毎日新聞社

B7 1960年（昭和35） 浅沼稲次郎暗殺事件 map E-7

日本を憂いた17歳少年による犯行

10月12日、日比谷公会堂で、自民・社会・民社3党の党首による立会演説会が開かれた。日本社会党（現・社会民主党）委員長・浅沼稲次郎が演説を始めると、短刀を手にした学生服姿の少年が壇上に駆け上がり、2度刺したという。浅沼はすぐに病院に運ばれたが、まもなく息をひきとった。右翼団体・大日本愛国党の党員だった17歳の少年の犯行で、安保闘争の指導的立場にあった浅沼の暗殺を決行したのだった。

決定的瞬間を捉えた長尾靖の一枚は、ピューリッツァー賞を受賞した。／毎日新聞社

B8 1960年（昭和35） 安保闘争 map D-6

日本を揺るがした戦後最大の政治闘争

東西冷戦が激化していた1960年、岸内閣が取り組んだ日米安全保障条約（安保条約）改定の内容が明らかになにつれ、国民の間に反対の気運が高まった。国会議事堂周辺では連日、安保条約に反対する学生や労働者、左翼グループなどによる大規模な抗議デモが行われた。6月15日には全学連主流派の学生およそ6000人が国会に突入し、警察官と衝突。女子学生ひとりが死亡、数百人が重軽傷を負う事件に発展。6月18日夜も4万人超が国会を取り囲んで抗議するなか、19日午前0時、安保条約は参議院の議決を得ることなく、自然承認に至った。

毎日新聞社

B9 1964年（昭和39） 東海道新幹線開通 map G-6

世界初の高速鉄道

東京オリンピックを目前に控えた10月1日、東海道新幹線が開通。世界初となる高速鉄道は、日本の経済成長を後押し。東京－新大阪間を4時間で結ぶ夢の乗り物として子どもたちの憧れとなり、日本の高い技術力を世界にアピールした。

19番線ホーム（新橋寄り）に碑が、18、19番線ホーム中央階段下にはプレートが残っている。

新幹線「ひかり1号」が東京駅を出発。待望の東海道新幹線開通に日本が湧いた。／毎日新聞社

B10 1966年（昭和41） ビートルズがやってきた！ map D-3

日本武道の聖地がコンサート会場に！

6月30日～7月2日、日本武道館でビートルズの初来日コンサートが開催された。5万人の募集に対し、24万を超す応募が殺到したと伝わる。今では多目的に利用される武道館だが、コンサート会場としての使用は、この日が初めて。神聖な武道館でのコンサート開催に「日本武道に対する冒涜」と反対する声もあった。

警視庁では混乱を避けるため、「ビートルズ対策会議」が招集され、当日は2000人を超える警察官やガードマンが厳戒態勢で臨んだ。

毎日新聞社

ちょっとひと休みしませんか？

緊迫した事件の現場をめぐっていると、
喉も渇くに違いない。
ひと休みしながら、情報や知識を得られる
とっておきのスポットを紹介しよう。

皇居東御苑　本丸休憩所 map E-4
千代田1-1

皇居東御苑「天守台」の目前に広がる芝生の東側にある「本丸休憩所」。飲料水の自動販売機が設置されているほか、絵葉書や菊の御紋入りの財布、キーホルダーなどのお土産も購入できる。

隣の本丸休憩所増築棟内では、「江戸図屏風」（国立歴史民俗博物館蔵）をはじめ多くの資料による時代考証をもとに製作された、寛永期の「江戸城天守復元模型」（1／30スケール）が展示されている。解説も充実していて一見の価値あり、ぜひ立ち寄ってみよう。

画面左方向が天守台。画面右、木の向こうにある建物が本丸休憩所。

江戸城の天守は、3度築かれた。3代将軍家光が建て、明暦の大火で焼失した最後の天守を復元した模型。高さは60メートルあったという。

東京シティアイ観光情報センター map G-6
丸の内2-7-2 KITTE 地下1階

東京駅丸の内南口前のKITTE地下1階にある「東京シティアイ」。都内の観光スポットやイベント、グルメなどの情報に加え、宿泊予約や東車券の手配など、観光に関するあらゆるサービスを提供している。日本各地の観光パンフレットが豊富に取り揃えられ、店内では旅をテーマにしたイベントが開催されることも。東京にいながら、旅気分が味わえそう。

隣接する旅カフェで、ひと休みしながら、千代田区の情報を得るのもよし。次の旅のプランを練るのも楽しい。

カウンターでは宿泊予約やチケットの手配なども対応してくれる。

千代田区立日比谷図書文化館 map E-7
日比谷公園1-4

日比谷公会堂に隣接する「日比谷図書文化館」は、本の貸し出しや閲覧席のほかに、千代田区の歴史や文化情報を展示する「ミュージアム」、イベントや講座を行う「カレッジ」が一体となった複合文化施設となっている。

また、カフェやレストランも併設されているので、さんぽの途中で立ち寄れば、ひと休みするだけでなく「もっと知りたい」という知的好奇心も満たしてくれるはず。

コラムで紹介した事件にまつわるネも探してみよう。

緑豊かな日比谷公園内に建つ築60余年の三角形の建物。

1階奥の「Library Shop & Café Hibiya」は、カフェ（60席）に書店が併設されている。ショップで扱う本は、「東京」などをテーマにセレクトされている。

ザ・フォレスト北の丸 map D-3
北の丸公園1-1

北の丸公園内に建つ日本武道館の目の前にある「ザ・フォレスト北の丸（北の丸休憩所）」。カフェでは、特製のパンズでつくるフォレストバーガーが人気。

インフォメーションラックには、北の丸公園内や皇居外苑の散歩に役立つウォーキングマップをはじめ、環境情報、近隣の文化施設の案内も配布しているので、ひと休みを兼ねて訪ねてみよう。

屋根に太陽光発電パネルが設置されたエコな建物。

ちょだ歴史さんぽMAP
江戸・東京事件の現場めぐり
4